

# 園研育成シバ「つくば太郎」, 「つくば輝」, 「つくば姫」栽培マニュアル

農業総合センター園芸研究所

## 1. 品種特性

### ノシバ「つくば太郎」

- 1) 紅葉の時期がやや遅く、緑化期間が長い。
- 2) 極めて生育旺盛でしっかりしたマットができる。
- 3) 日陰でもよく生育するのでビル間などの都市緑化に適する。



### コウライシバ「つくば輝」

- 1) 緑化期間が長い。
- 2) 茎が太く生育旺盛でしっかりしたマットができる。
- 3) 日陰でもよく生育するのでビル間などの都市緑化に適する。
- 4) 踏まれても強いので校庭、公園などの緑化に適する。



### ヒメコウライシバ「つくば姫」

- 1) 春の萌芽が早いだけでなく紅葉もやや遅く、緑化期間が長い。
- 2) 葉の緑が濃く、景観が素晴らしい。
- 3) 茎が密でしっかりしたマットができる。
- 4) 出穂しにくく、自然交雑による混種（商品性低下）が少ない。



## 2. 作型

| 作型  | 月 | 1 | 2 | 3    | 4 | 5    | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|-----|---|---|---|------|---|------|---|---|---|---|----|----|----|
| 1年目 |   |   |   | (定植) | — | (定植) |   |   |   |   |    |    |    |
| 2年目 |   |   |   | —    | — | —    | — | — | — | — | —  | —  | —  |
| 3年目 |   |   |   | —    | — | —    | — | — | — | — | —  | —  | —  |

3. 収量目標：植付2年目以後、年1回100束/a

## 4. 定植準備

- 1) 堆肥 500kg, 苦土石灰 20~30kg/a, ようりん又は重焼りん 20~30g/a を全面に施し深耕する。
- 2) 圃場は、均平になるよう丁寧に整地する。

## 5. 定植

- 1) 畦幅 30cm, 深さ 10cm に溝をつくり、10束/a の種芝を手でほぐしながら溝に植えていく。
- 2) 根が隠れる程度に足で覆土し、乾かないうちにローラーで2~3回鎮圧する。
- 3) 植付後圃場の乾燥が続く場合、根部が露出しないように灌水する。

## 6. 葉刈り

- 1) 6~9月に月2回以上の葉刈りを行う（新植、改植園では前半は行わない）。
- 2) 特に種芝圃場では、穂が見え始めたら早めに葉刈りを行い、混種を未然に防ぐ。
- 3) 10月には止め刈り、生育状況によっては休眠明けや出荷前にも行う。
- 4) 地上部刈高は、ノシバで3~4cm, コウライシバで2~3cmを目安にする。
- 5) 刈り取ったくずは早めに外へ持ち出す。

## 7. 除草管理

- 1) 土壌処理剤は20~30リットル/aを撒布量とし、4月上旬頃と9月下旬頃に処理を行う。
- 2) 茎葉処理は、雑草の発生をみながら雑草の種類にあった登録除草剤を散布する。

## 8. 施肥

- 1) 表層が固まっているため濃度障害がでやすいので、1回の施肥量を少なくし回数や時期で調節する。
- 2) 生育中の総施肥量は、窒素, リン, カリそれぞれ成分で3kg/aを目安にする。

| 種類 (kg/a) | 月 | 1 | 2 | 3   | 4   | 5   | 6   | 7   | 8   | 9   | 10  | 11 | 12 |
|-----------|---|---|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|
| 硝安化成肥料    |   |   |   | 0.3 | 0.3 |     |     |     |     |     |     |    |    |
| 普通化成肥料    |   |   |   |     |     | 0.3 | 0.3 | 0.3 | 0.3 | 0.3 | 0.3 |    |    |
| PKの多い化成肥料 |   |   |   |     |     | 0.3 | 0.3 |     |     | 0.3 |     |    |    |

- 3) 収穫後はようりん又は苦土重焼りん 10~15kg/a, 苦土石灰等を10kg/a施す。
- 4) 収穫後の萌芽10%頃に3要素とも成分で0.2~0.3kg/a施す。

## 9. 病虫害防除・生理障害

- 1) 葉枯病, 葉腐病等を登録農薬で適宜防除する。

## 10. 収穫・出荷

- 1) ターフが完全に形成されたとき、規定の大きさに切り取って収穫する。
- 2) 次期収穫まで約10ヶ月養成する。
- 3) 新植3年目のみ、条件がよければ年2回の収穫が可能である。
- 4) 4年目以降は年1回の収穫が続くが、5年目以降は収量が低下する。

<問い合わせ先：園芸研究所花き研究室 電話0299(45)8341>